

令和 4 年 6 月 3 日

海の資源で脱炭素に貢献！

民間企業等と連携しブルーカーボンの実証事業を行いました。

本市では、2050 年カーボンニュートラルの達成に向けて、温暖化対策に取り組んでおり、その中で、近年、国土交通省を中心に可能性が議論されているブルーカーボン（※）の活用について、検討を進めているところです。

この一環として、ブルーカーボンのモニタリング手法にデジタル技術が活用できることから、IT 分野で強みを持つ株式会社 N T T データ等と連携し、実証事業を行いました。

ブルーカーボンの取組は、SDGs 未来都市に掲げており、実証事業の結果をもって、本市の脱炭素化の施策を進めて海を守るとともに、国内のブルーカーボンの活動の加速にも寄与してまいります。

※ 2009 年に国連環境計画の報告書において、藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素がブルーカーボンと命名され、CO₂ の吸収源対策の新たな選択肢として提示されたことで、世界的に注目されています。日本では、現在のところ、ブルーカーボンは温室効果ガスインベントリに登録されていないことから、炭素クレジットとして認められていませんが、横浜市や福岡市で独自の炭素クレジットに関する取組みを行っています。

1 実施体制

(1) 実施主体

株式会社 N T T データ、株式会社 N T T データ経営研究所、上天草市

(2) 支援者

熊本県水産研究センター、天草漁業協同組合

2 実施期間

令和 3 年 12 月から令和 4 年 3 月まで

3 実証の結果

今回の実証で、アマモの CO₂ 吸収量文献値と採取した海そうの炭素量を計測した吸収量の実測値を比較、検証したところ、実測値が低かったことから、ブルーカーボンを精緻に把握するためには、土地ごとの特性、算定時期を考慮に入れる必要があることが明らかになりました。

<実証方法> N T T データ主導により実施

- (1) 海そうが生えている面積を空中ドローンにて測定
- (2) 海そうを採取（大矢野町宮津地区海遊公園前付近）し、湿重量を測定
- (3) 以下 2 種類の方法により海そうの CO₂ 吸収量を算出
 - ア 既存の文献値等に基づいて吸収量を算出
 - イ 実際に採取する海そうから炭素量を計測し吸収量を算出

4 今後について

今後もN T Tデータ等の民間企業との連携も視野に入れた上で、本市の海をフィールドとし、海そうの成長率の観察実験、海そうの植栽実験、デジタルを活用したモニタリング手法及びブルーカーボン・オフセット・クレジット制度等の検討を進めます。



(連絡先)

企画政策部企画政策課

担当：岡元課長、飯野主事

電話：0964-26-5539

FAX：0964-56-4972